

2025年度

学校名 横浜市立鶴見小学校

対象学年 6年

① 学習指導案

プログラム	No. 11 「 地域景観プランナーになろう 」
単元名 (全70時間)	STG 's～持続可能な鶴見川を目指して～
学習のねらい	ツルスイ（鶴見川水族館）という本校が5年間続けてきた活動をこれからも継続していくことが環境保全につながると考えた。「地域の方々へ向けて、まちの環境をよりよくすることが、川と私たちの未来へつながっていることを発信したい。」「後継者を育てたい!」という思いの実現に向け、鶴見川生態調査やツルスイの活動を通して、学校は地域や様々な方々とつながりながら文化や環境を形成していることを知り、環境に対する自分たちのかかわり方に気付くとともに、学校や地域の今後の発展のために自分にできることを考え、行動しようとする。
学習内容	1 鶴見川の魅力と課題を知る 2 魅力の発信：ツルスイ（鶴見川水族館）の開催、他 3 課題解決のための取り組み：アニメーションで後継者育成 4 ツルスイを持続可能なものにするための取り組み
参考資料	<a href="https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/<https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/article-2002/>article-2002">https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/<https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/article-2002/>article-2002
準備品	https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/article-2002/
実施場所等	https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/article-2002/

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
	別紙、学習指導案を参照		

<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
		別紙、学習指導案を参照		

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>モデルプログラムの事例の流れを年間を通して実施していくような捉え方をしました。何度も景観と向き合い、そこにかかわる人との交流を通して、自分たちのまち、自分たちの川と「自分ごと」として景観を捉えることができるように工夫しました。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>このまちや鶴見川の魅力と課題を伝えたいという思いが強いが、専門家からの助言で「伝えること」と「伝わること」は別物だという助言をいただいた。そして伝わるようにするにはどうしたらよいかを真剣に考えた。動画制作でもアニメが伝わるのか、それとも実写の方がより分かりやすい表現にならないかなどを何度も話し合った。「ごみは実写で写すと汚さが伝わり過ぎてしまうからアニメにしよう」など、効果的な選択をしながら、絵コンテを完成させ、制作に取り組むことができた。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>何度も干潟まで通い、生き物と触れ合ったり、透き通る水や景色が本当に楽しかった。まちから川へ流れるごみもあるけど、その課題を解決するために意見を出し合い、みんなと協力して活動できたことは、とても学びになった。そして、これからもずっとこの活動が続いていき、生き物がたくさんいて、泳げるくらいにきれいな川へとなっていってほしい。だからもうらやましがられる景観があるまちにしていきたいです。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>景観を意識することで、近視眼的な見方だけでなく、俯瞰的にまちをとらえ、長期的な視点でものごとを思考できるようになったところは、大きな子どもたちの成長だったと考える。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>多くの人と交流をしてまちを捉え直すには、しっかりと時間をかけて少しずつ進めていく必要がある。計画を立てる際には、教師の計画にも余裕をもつことは当然として、ときに回り道であるかのような子どもの興味・関心も寄り添って伴走することで、子どもたちは、いよいよ自分ごととして、活動し始める。どこまでも子どもたちがどこに関心をもっているのかを捉え、活動を進めて積み重ねていくが、それがその子にとってどのような学びになったのかを常に意識していきたい。</p>

STG's ~持続可能な鶴見川を目指して~

横浜市立鶴見小学校 6年2組 早川 洋一

ツルスイについて

ツルスイとは、鶴見川水族館の略称だが、水族館のことを指しているのではない。本校児童が総合的な学習の時間に取り組んでいる環境保全活動と川の魅力発信を目的とした活動の総称と言える。活動の正式名称は、「STG's~持続可能な鶴見川を目指して~」として、SDG'sのDをTsurumigawaのTにしたものとなる。

具体的な活動としては、鶴見川での生き物の調査(捕獲した生き物を展示することで生き物がたくさんいることを発信することからツルスイと名付けた)、ごみ拾い、フィールドワークを行い、体験的な学習を通して自然と触れ合うことを通して、魅力と課題を見つけ、課題解決のためにできることを考え、地域へ発信してきた。今年で5年目となる。単元を立ち上げた5年前は、コロナ禍3年目であり、三密を防がなければならない時期の真っ只中。友達と物理的に距離をとらなければいけない制約の中、それまでの当たり前ができなくなり、我慢を強いられていた子どもたち。だからこそ、環境に負けずに何ができるのかを創造し挑戦したいと考えた。教室での活動が難しいなら、外で活動する材はないか。外出も思うようにできない中で、自宅に閉じこめられていたからこそ、自然と向き合い、豊かな体験活動で元気になって欲しいと願った。前年度の活動で校内のビオトープを整備する活動をしてきた1年目の子どもたち。しかし、校内でまとまるのは高学年の総合としては避けたかった。どうにかしてまちへ出て、まちの人たちとつながりながら進められる活動にできないものかと考えていた時に、「鶴見川で調査みたいなことをしている人がいたのを見かけて、ずっと気になっていた」と児童がつぶやいた。この一言をきっかけに鶴見川探検から活動がスタートした。下記は、過去4年間の活動と連携先についてまとめた。

これまでのツルスイの活動

	活動と連携先
1年目(5年生) ・ツルスイ立ち上げ ・アイギョル結成 ・イベント開催	○生き物をキャラクター化して、アイギョルグループ「TSURUMIGAWA20」を結成 ※アイギョルについては、毎年捕まえたものを追加しながら継続中 ○区役所にてツルスイ開催 ○地域や企業、高校生とイベント「Let's ツルスイ 大作戦!」を開催 【毎年の連携先】鶴見川流域ネットワーク、横浜市共創推進課、ナイス株式会社、YOU テレビ株式会社、タウンニュース 【連携先】鶴見区地域振興課、環境省、東高校サステナブル研究会、他
2年目(6年生) ・映像と言葉で動画配信 ・共創博覧会	○拾ったごみを楽器にして録音し、それを音楽家 Akeboshi さんと音楽制作 ○映像と言葉で動画制作 ○LICOPA 鶴見、ベルロード商店街、ナイス(株)、サルビアホールでツルスイを開催 ○横浜市庁舎で開催された共創博覧会にて、活動を発表、映像制作の告知 【連携先】資源循環局、LICOPA 鶴見、これつる編集部、NHK、他
3年目(5年生) ・ダンスでツルスイの魅力を発信	○ダンスでツルスイの魅力を発信 ※外国人の多い地域だから、言語を超えた表現で関心が高まるように挑戦。年度途中で、中国から日本語が全く分からない児童が転入して来たが、ダンス経験者だったので、ダンスを通じて友達と交流することができ、教室内でも目標を達成。 ○ダンサーAMIさんから振りの付け方を習い、オリジナルダンスを制作 ○総持寺「夢ひろば」にて、完成した「僕たちアイギョルズ」を発表 ○OCIAL 鶴見、サルビアホールにてツルスイを開催 【連携先】資源循環局、CIAL 鶴見、ダンサーAMI、グリーンバード、これつる編集部、他
4年目(5年生) ・ツルスイミュージカル	○ミュージカルで川の魅力と課題を発信 ※脚本家・演出家の先生から、伝えることの本質や表現について学び、ありのままの自分でできる表現に挑戦した。

	<p>○京急生麦駅にてツルスイ掲示板</p> <p>○京急ミュージアム、体育館にてミュージカル公演</p> <p>○ツルスイパンの開発と販売</p> <p>【連携先】ザ・ライフ・カムパニー 蕪木 陽青生先生（脚本・演出）、合同会社リヴトゥウィン 伴 建介さん、東京大学大学院 大澤幸生教授、Alice のパン工房 3-OVEN、京急電鉄株式会社、株式会社ココラボ、環境省、日本環境教育フォーラム、ジョンソン株式会社、これつる編集部、横浜市資源循環局街の美化推進課</p>
5年目(6年生) アニメーションでツルスイの魅力を発信	<p>○アニメーションでツルスイの魅力を発信</p> <p>○サルビアホールにて、ツルスイ開催(パンの販売)</p> <p>○ツルスイパンの開発と販売</p> <p>○バンクパークヨコハマにて、ツルスイ開催(パンとTシャツの販売)</p> <p>○後継者育成のため、校内でのツルスイを開催する。その際は、今までのツルスイの活動の制作物(歌やダンス、資料など)を活用する。</p> <p>【連携先】環境省、日本環境教育フォーラム、ジョンソン株式会社、きっかけづくりランナー、アニメ作家、横浜銀行、竹中工務店、これつる編集部、Alice のパン工房 3-OVEN、京急電鉄株式会社、株式会社ココラボ、GREEN×EXPO 推進課、他</p>

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

本校は、鶴見川を材に活動を続け5年目となる。初めは環境とものづくりと食に興味が分かれた。しかし、昨年度ミュージカルをしながらパンの発売もしたことを挙げ、「ツルスイ(鶴見川水族館)は、このクラスの誰もが輝ける材です!」という児童の言葉で、材が決定。体験から始め、活動をスタートしたかったが、タイミングが合わず、TR ネットから知識を学び、川の魅力と課題を知ることから始まった。まちの人たちに魅力と課題を発信するだけでなく、動画づくり(アニメ活用)に挑戦し、ツルスイが持続可能となるように後継者を育成していくことが今年最大の目的となる。課題解決のために様々なアイデアを出し合い、協働的な学びを実現していきたい。

身に付けさせたい力と材について

鶴見川は、水質の改善が進み、生き物が豊富な魅力を持つ一方で、ゴミの放置といった課題も抱えている。子どもたちが、専門家から川の歴史や生物について学び、身近な川での体験活動を通して、鶴見川の魅力と課題を多角的に捉えることができる。この学習を通して、子どもたちの地域への関心と郷土への愛着を深め、自分たちの活動(ツルスイ等)を持続可能なものとして捉え直すという課題意識がもてるようにしたい。後継者を育てるという目標へ向け、「アニメを活用した発信」や「まちの連携先との継続的な関わり」という具体的な活動を通して、相手に伝えたいことが伝わる方法を考え、表現を工夫して、主体的な学びへの意欲と、まちの一員としての自覚を高めたい。

単元目標

「ツルスイの思いを受け継ぎ、持続可能な鶴見川的环境とツルスイのためにできることに取り組みたい。」
「地域の方々へ向けて、まちの環境をよりよくすることが、川と私たちの未来へつながっていることを発信したい。」という思いの実現に向け、鶴見川生態調査やツルスイの活動を通して、学校は地域や様々な方々とつながりながら文化や環境を形成していることを知り、環境に対する自分たちのかかわり方に気付くとともに、学校や地域の今後の発展のために自分にできることを考え、行動しようとする。

探究課題の解決を通して育てたい資質・能力

探究課題	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【探究課題の分類】 身近な自然環境や環境問題、環境保全に取り組んでいる人々や組織の思いや願い</p>	<p>○鶴見川的环境保全、改善、創造に取り組むことは、環境に対する人間の責任と役割があり、自分自身が行動することがその実現に直結することが分かる。</p> <p>○鶴見川の自然や歴史に関すること、川の生態系、歴史、環境問題といった専門家からの学ぶこと、自分たちの調査を通して分かったことが理解できる。</p> <p>○イベント運営や地域発信におけるコミュニケーションの具体的な方法や表現の工夫について理解する。</p>	<p>○身近な環境や様々な自然、社会の事物から問題を発見し、解決への方法や手順を考える。 【課題の設定】</p> <p>○身の回りの自然や地域社会の中での体験活動や調査、各教科の見方・考え方を活用し、目的に合った情報を得る。 【情報の収集】</p> <p>○課題の解決に向けての予想や仮説を立て、見通しをもち、必要な情報を選択、精選するなどして情報を整理・分析する。 【整理・分析】</p> <p>○鶴見川が抱える課題（ごみ、持続可能性など）に対し、多角的な視点から解決策を思考し、「後継者とは何か」といった本質的な問いについて判断することができる。</p> <p>○活動の楽しさや思いが聞き手や受け手に「伝わり、共感してもらえ」ように、発表やアニメ、イベント企画における表現を工夫し、判断して適切に表現することができる。 【思考・判断】</p> <p>○自分や集団の思いや考えをまとめ、相手や目的、条件などに応じて表現する。 【まとめ・表現】</p>	<p>○課題の解決に向けて役割を分担したり、支え合ったりして、力を合わせ粘り強く取り組もうとする。</p> <p>○鶴見川の現状を自分ごととして捉え、その環境保全や持続可能性のために、自ら進んで行動しようとする。</p> <p>○地域との連携や後継者育成の活動を通して、自分たちもまちの一員であるという意識を高め、よりよい社会の形成に貢献しようとする。</p>
<p>【探究課題の分類】 アニメーションの本質的な価値と、それを生業としている人ならではの思いや願いの実現に向けた表現の価値</p>	<p>○作品に命を吹き込むためには、自分たちが楽しく制作をすることが重要であることが分かる。</p> <p>○アニメで表現をする人は、目指す表現や目的とすることがあり、その実現のために技能を追求したり、技能の追及に必要な知識を身につける努力をしたりしていることや、そのことが、自己実現につながっていることが分かる。</p>	<p>○活動の楽しさや思いが聞き手や受け手に「伝わり、共感してもらえ」ように、発表やアニメ、イベント企画における表現を工夫し、判断して適切に表現することができる。 【思考・判断】</p> <p>○自分や集団の思いや考えをまとめ、相手や目的、条件などに応じて表現する。 【まとめ・表現】</p>	<p>○作品作りを楽しみ、自分なりに工夫して制作しようとする。</p> <p>○アニメのコンテンツを考えたり、撮影に必要な知識や技術を身に付けようとしたりする。</p> <p>○伝えたいことを表現するために、専門家に指導を求めたり、仲間と協力して作業に取り組もうとしたりして、自分の考えや意図を表現しようとする。</p> <p>○多様な考え方や新たな視点を受け入れようとする。</p>

4 研究テーマに迫るための手立てと単元構想 (全 76 時間)

STG 's ~持続可能な鶴見川を目指して~

1. 総合を立ち上げよう。⑨

- ・今年度の取組について話し合い、材・活動の候補を考える。
- ・鶴見川探検をし、さらに専門家の TR ネットから川の歴史などを学ぶ。
- ・ゴールと計画を明確にし、見通しをもつ。

連携先：鶴見川流域ネットワーク、
横浜市資源循環局街の美化推進課、
日本環境教育フォーラム
ジョンソン株式会社

【教師の支援①】

体験活動からスタートすることで、意欲を高めると共に、何のために活動をしていくのかという目的意識（ゴール）と活動内容（目標）を明確にする。また活動を通して身に付けた活動を通じた自分たちで確認する。

- ・ツルスイが持続可能な活動になるように後継者を育成したいな。
- ・ツルスイは初めてだから、まだ川のことをよく知らない。だからもっと探検に行きたいな。
- ・ツルスイの活動を通して自分一人一人が輝く活動になって、思いが実現できそうだな。

【教師の支援②】

外部講師や専門家と繋がるように調整し、直接かわからないと分からない知識や経験、思いを教える機会をつくる。

2. 鶴見川の魅力と課題を調査し、ツルスイを開催しよう⑩

- ・繰り返し関わることで地域への関心を高め、生き物や川への愛情を育み、自ら学びに向かう主体的な態度を高める。
- ・鶴小の友達やまちの人が川に関心をもち、楽しく理解してもらえるようにツルスイを開催する。

① サルビアホール：10/4(土)
つるみ ちゅらみ☆エコフェスタにツルスイ開催
ゲーム、オリジナルパン販売、チラシ配布他

② バンクパークヨコハマ：10/11(土)
ネイチャーキッズフェスタでツルスイパン販売
ゲーム、パン・Tシャツ販売

③ 校内ツルスイ：10/23(木)～30(木)
鶴見小の後輩に、ツルスイの楽しさを伝える。
運動会代休日に実施するツアーへの呼びかけをして、来年度の後継者へつなげられるようにする。
※感染症予防のため、1年生は延期

④ ツルスイツアー：10/27(月)
ごみ拾いで課題と向き合い、生き物と触れ合う体験をしてもらう。

⑤ GREEN×EXPO キックオフセッション：10/27(月)
6年2組からの市長へのお願いとして、ツルスイを市の公認の活動としてもらう

連携先：ネットワーク、横浜市共創推進課、鶴見区区政推進課

【教師の支援③】

水族館の準備に当たっては、自分の得意なことを生かして活躍できるようにする。また、様々な方との打ち合わせや交流を通して、自分の思いやアイデアを出し合い、積極的に課題解決へと向かうようにする。開催するたびに、よかったところと反省点を挙げて、PDCAサイクルを意識しながらブラッシュアップしていく。

- ・サルビアホールのつるみ・ちゅらみエコフェスタで川の魅力と課題を楽しく知ってもらえたな。
- ・横浜市ネイチャーキッズで、活動計画の発表して、多くの人にツルスイの活動を伝えられた。
- ・ちびっこ王国で、たくさんのお子もたちにツルスイのことを知ってもらえたから、後継者になるかも。
- ・ツアーで実際に体験してもらうことで、魅力と課題を実感する人が増えてよかったな。

(番外編)

昨年度に引き続き、ツルスイパンの開発と販売を交渉。パン屋さんと協力して、昨年度の「チョコタニチ」と「カメロンパン」を販売する。

3. ツルスイを持続可能な活動にするためにアニメを制作しよう⑩+国語⑥

- ・専門家からアニメを制作するにあたり知っておくべきことを学ぶ。
- ・アニメ作品に対する考え方を知る。
- ・これまでツルスイの活動に取り組んできた振り返りを行い、何がツルスイの魅力なのかを分析し、楽しさを感じたコンテンツを決定する。
- ・楽しさを深掘りして文脈で捉え、最適な表現方法を考える
- ・グループごとに楽しいと感じた場面を絵や言葉でデザインスケッチにする。
- ・企画書を整理・分析しアニメ動画全体の構成を考える。
- ・平面でのアニメにすることで、短時間で制作ができるようにする。
- ・中心となるコンテンツを設定して、起承転結を作っていく。
- ・コンテンツごとにグループを作り、登場するキャラクターや背景について詳しく企画書を作成する。
- ・企画書に沿って、必要な制作物を準備していく。
- ・必要に応じてアニメ監督に助言をもらいながら、撮影を進めていく。
- ・必要なコンテンツがそろったら、アニメ監督と相談しながら、全体をまとめていく。

連携先：studio koma_gori 葭原武蔵監督、きっかけづくりプランナー 藤ヶ谷 直美、プロデューサー 丸川貴史、TOMATO RED MOTION ディレクター原 麻衣、(株)Happilm 代表取締役/映像ディレクター 大石 健弘

【教師の支援③】

プロから学ぶことは技術だけでなく、アイデアだけではなく、どのように生きているのか、どのように生きるべきか、そして、それらから自分にとって大切なこと、また、子どもたちのアイデアを視覚的に整理し、まとめる。

【国語】

おすすめパンフレットをつくらう

- ・アニメの語源は、ラテン語でアニマ。生命のないものに命を吹き込むという意味だから、作品には私たちの命を吹き込んだものにしないといけない。
- ・半年間、ツルスイの活動をしてきたけど、本当に楽しかった。
- ・自分たちが楽しいと感じたことを分析すれば、後継者につながるはず。だから、私たちの感じた楽しさをコンテンツにしていけばいいね。
- ・絵が得意でなくても、言葉といっしょに表現すれば、イメージは共有できるね。
- ・自分たちで表現できるシーンはいいけど、どうしてもアイデアが出てこないときは、監督に相談すれば、ヒントがたくさんもらえるね。
- ・自分たちが楽しいと感じる場面だけど、見ている人が楽しいと感じられるように起承転結を考える必要があるね。
- ・企画書やものづくり、映像づくりと、様々な役割を互いに助け合い、協力して完成させることができたね。

【教師の支援④】

自分たちの活動を振り返り、自分たちだけでは決まらなかったことを実感し、地域の方に支えられてきたことに感謝できるようにしたい。これからも地域の一員として活躍することを考え、やっという意欲を高める。

4. Let's ツルスイ大作戦！でツルスイの魅力を発信しよう！⑩

- ・アニメーション映像をこれからのYouTubeから、より多くの方へ発信する。
- ・動画を活用して流せる場所や施設を拡大する。
- ・鶴見小の後輩へ、ツルスイを続けていってもらえるように、魅力を伝える。
- ・STG 's ラボのメンバーとしての思いを高め、年間の活動を振り返る。
- ・3月20日に横浜市庁舎で開催されるサーキュラーエコノミーplus×EXPO2026で動画を発表する。
- ・今年度の集大成として、3月28日にベルロード商店街で、これからも連携していく人たちといっしょに、チームツルスイを宣言して、ツルスイという活動が持続可能なものになるように、任意団体としてスタートする。

連携先：鶴見銀座商店街ベルロード、Green Expo 推進課、タウンニュース、YOU テレビ、他

- ・自分たちの思いを伝えることができた。アニメやイベントを通じて、今までの自分ではできないことにも勇気を出して挑戦することができた。
- ・ツルスイを通して、自分たちの活動に自信が付いたし、この活動がこれからも続いていくことを実感できた。
- ・これからも、ツルスイやまちの方々と関わっていききたいな。
- ・山中市長に市の活動として公認してもらったのだから、期待にこたえられるようなチームツルスイになっていきたいな。
- ・今までツルスイに協力してくれた連携先の人たちとのつながりをこれからも大切にしていきたい。

5 小単元の構想（3. ツルスイを持続可能な活動にするためにアニメを制作しよう⑩+国語⑥）

(1) 本小単元で育てたい資質・能力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>【アニメーションの本質的な価値の理解】</p> <p>○ラテン語の「アニマ（生命）」に由来するように、無機質なものに命を吹き込み、物語や感情を伝えるアニメーションの本質的な役割と価値を理解する。</p> <p>○アニメ作家が作品に込める、目に見えない「思い」や「願い」が、作品のメッセージ性や感動に深く影響を与えることを知る。</p> <p>【表現の系と効果の理解】</p> <p>○ツルスイの「楽しさ」が伝わるために、どのような表現方法（色、動き、構図、キャラクターの設定など）を選択しているのかを学び、表現の意図と受け手への伝わり方について理解する。</p> <p>【企画・構成のプロセスの理解】</p> <p>○テーマの設定からコンテンツの作成に至るまでの、アニメ制作における企画・構成のプロセス（ターゲットの設定、メッセージの明確化、構成案の作成、キャラクター設定など）を理解する。</p> <p>○協力者（アニメ作家、プロデューサーなど）との協働を通じて、作品が多角的に作られていることを知る。</p>	<p>○「なぜアニメでツルスイの魅力を発信するのか」「後継者育成とは具体的にどういうことか」といった本質的な問いに対し、協力してくれる人たちの視点や考え方を参考にしながら、自分たちなりの答えを導き出そうとしている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>○ツルスイの活動で経験した「楽しさ」や「感動」の本質を分析し、それをアニメーションで表現するためのテーマを設定する。</p> <p>○設定したテーマに基づき、受け手が共感しやすい物語やコンテンツの構成（起承転結）について深く思慮し、工夫する。</p> <p>【課題の設定・まとめ・表現】</p> <p>○コンテンツで伝えたいことを効果的に表現する方法を考えたり、集めた情報を比較したりするなどして、整理・分析し、アニメ制作に取り組むことができる。</p> <p>【収集・整理・分析】</p> <p>○絵の得意、不得意に関わらず、言葉やアイデア、表現の工夫を通じて、自分が最も伝えたい「ツルスイの魅力」や「思い」をアニメーションという形で具体化しようと努力する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>	<p>【プロの姿勢からの学び】</p> <p>○作品に命を吹き込むことの重要性や、楽しみながら制作することの価値を、アニメ作家の姿勢から学び、自分たちの活動に取り入れようとする。</p> <p>【探求と挑戦の継続】</p> <p>○アニメ制作において困難に直面した際、専門家から助言を積極的に求め、仲間と協力しながら解決策を探求し、粘り強く挑戦しようとする。</p> <p>【多様な価値観の受容】</p> <p>○アニメ作家の表現に対する多様な考え方や、仲間との共同作業で生まれる新たな視点を受け入れ、自身の視野を広げようとする。</p>

(2) 小単元目標

アニメーションの本質的な価値とプロの表現に込められた思いを理解し、ツルスイの魅力を伝えるためのテーマや企画書の作り方を知り、受け手に伝わるための工夫を仲間と協同的に考え、多様な表現を認め合いながら、ツルスイの楽しさを動画で伝えていくことができる。

(3)小単元展開

3. ツルスイを持続可能な活動にするためアニメ動画を制作する⑩

○アニメ監督と出会い、アニメーションについて学び、制作の見通しを立てる。②

- ・Y監督の作品を見せてもらい、アニメのイメージを共有する。
- ・アニメとは何なのかということを見せてもらい、制作する前の心構えを学ぶ。
- ・アニメ制作に必要な時間の目安を知り、計画につなげる。

- ・プロが作るアニメーションはすごい。自分たちにできるかな。
- ・5分の映像を完成させるのに3年もかかったなんて信じられない。
- ・同じクオリティのものは難しくても、自分たちが伝えたいことを伝えていきたいな。
- ・アニメの語源は、ラテン語でアニマ。生命のないものに命を吹き込むという意味だから、作品には私たちの命を吹き込んだものにしないとイケないな。

○構成を考える。⑩【本時】

- ・今年度やってきたことを振り返り、その中からアニメ制作のヒントを探す。
- ・これまでツルスイの活動に取り組んできた振り返りを行い、何がツルスイの魅力なのかを分析する。
- ・ツルスイの「楽しさ」をデザインスケッチにして分類し、コンテンツを決定する。
- ・楽しさを深掘りして文脈で捉え、最適な表現方法を考える。【本時】
- ・グループごとに楽しいと感じた場面を絵コンテにし、企画書を作成する。
- ・アニメ素材をどう組み立て、一つの作品としていくかプロデューサーから学ぶ。
- ・平面でのアニメにすることで、短時間で制作ができるようにする。
- ・コンテンツごとにグループを作り、登場するキャラクターや背景について企画書を作成する。

連携先：studio koma_gori 葭原武蔵監督、Studio Happilm、きっかけづくりプランナー

- ・半年間、ツルスイの活動をしてきたけど、本当に楽しかった。
- ・自分たちが楽しいと感じたことを分析すれば、後継者につながるはず。だから、私たちの感じた楽しさをコンテンツにしていけばいいね。
- ・絵が得意でなくても、言葉といっしょに表現すれば、イメージは共有できるね。

○コンテンツに必要な登場キャラクターや背景、仕掛けなどを制作して撮影する。⑩

- ・企画書に沿って、必要な制作物を準備していく。
- ・撮影に必要なものを制作したり、撮影の仕方のアイデアを考え、トライ&エラーを繰り返しながら、映像を撮りためていく。
- ・必要に応じてアニメ監督に助言をもらいながら、活動を進めていく。
- ・必要なコンテンツがそろったら、アニメ監督と相談しながら、全体をまとめていく。
- ・最終的な映像調整をしていただき、映像が完成。

連携先：studio koma_gori 葭原武蔵監督、Studio Happilm、きっかけづくりプランナー

- ・ツルスイの活動の趣旨や思いを伝える場面をつくったことで、来てくれた人にツルスイの魅力や必要性をわかってもらえるね。
- ・これから先、持続可能なツルスイにしていくためには、この映像を使ってどう広めるか考えたい。自分たちで表現できるシーンはいいけど、どうしてもアイデアが出てこないときは、監督に相談すれば、ヒントがたくさんもらえるね。
- ・自分たちが楽しいと感じる場面だけど、見ている人が楽しいと感じられるように起承転結を考える必要があるね。
- ・企画書やものづくり、映像づくりと、様々な役割を互いに助け合い、協力して完成させることができたね。

6 本時について

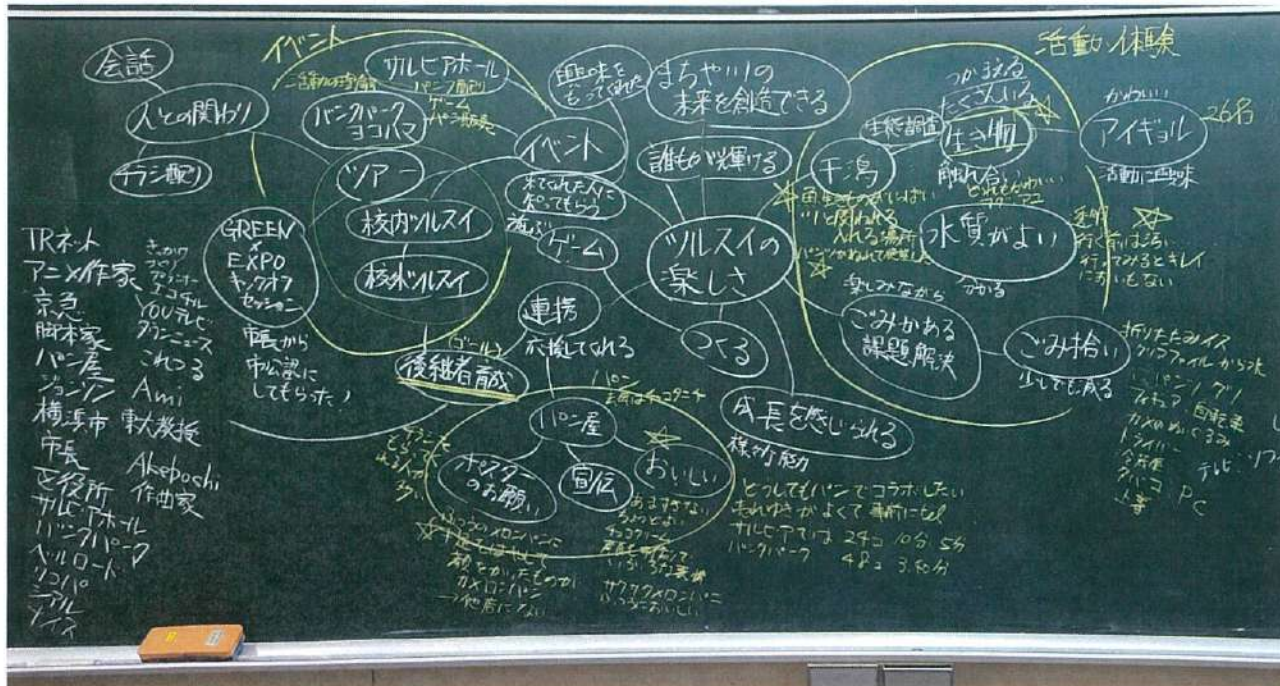
(1)本時目標

アニメのテーマやアイデアが伝わるための最適な表現方法考え、理解することができる。

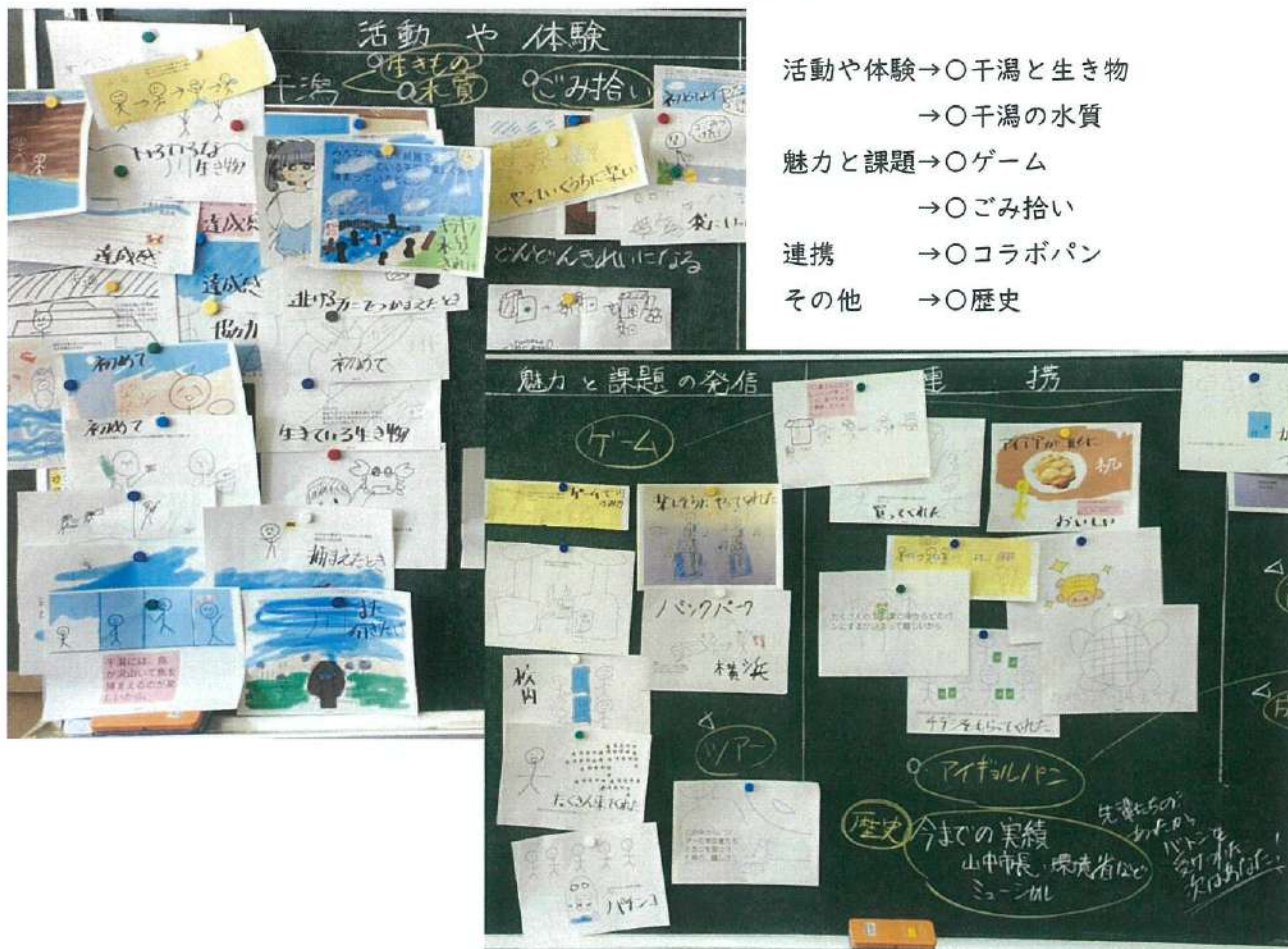
予想される子どもの活動と内容	□支援 ■評価
<p>前時</p> <p>○これまでのツルスイを振り返り、自分たちが感じていた「楽しさ」を表す場面をアイデアスケッチにして整理した。そこから楽しさが伝わるコンテンツ(干潟と生き物・干潟の水質・ごみ拾い・ゲーム・コラボパン・歴史)の6つに決定した。</p>	<p>□「干潟が楽しかった」ではなく、「初めて生き物を自分の手で捕まえたから楽しかった」のように、楽しさの本質に迫れるように、助言する。</p>
<p>1. プロの企画書を参考に、アニメができるまでの見通しを持つ。</p> <p>・ツルスイで考えると「楽しさ」がアイデア、作る理由が後継者育成、作り方はコマコマ、スタッフはクラスの仲間だ。</p>	<p>□前時まで考えた自分の考えを発表できるように、自分の考えを事前にまとめておくようにする。</p>
<p>テーマやアイデアを伝えるにはどんなアニメを作ればいいかを考えよう。</p>	
<p>2. テーマを整理して伝える構成について考える。</p> <p>トピック①</p> <p>○「なぜ?なに?どんな?」を深掘して、整理してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・干潟に「また行きたい」と思うのは、達成感があるから。 ・達成感を感じるのは、何度も挑戦して捕まえられたから。 ・やっと捕まえられたのは、生き物が逃げ続けたから。 ・生き物が逃げるのは、生きているから。 ・干潟は生きた生き物に触れられる!これが「また行きたい」という感情の正体なんだ! ・この感情をアニメを見た人と共有したいな。 <p>3. 他人とコミュニケーションをとるときに、最適な表現方法を考える。</p> <p>トピック②</p> <p>○鶴見のことを知らない海外の人にも伝わる表現を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロンパンをどうやって説明するか、考えないといけないな。 ・事前に情報を知らない人に伝えるのは、難しいな。 ・自分たちの当たり前を疑って、相手の気持ちになって伝えることが表現でコミュニケーションするとき大切なことだ。 ・何をどの順に伝えるのか整理して計画しないとイケないな。 ・企画書でそれを考えながら整理していきたい。 <p>3. 次時に取り組むことを確認して、振り返り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメで「伝える」には、相手を思いやり、「伝わる」ように表現を工夫することが大切。 ・今日は言葉にしたけど、絵や音、声など表現方法はたくさんある。企画書にはそういうことも整理していきたいな。 	<p>■「楽しさ」について整理したものの中から、時間や楽しさが伝わるかという視点でアニメのコンテンツにするものについて、根拠をもって選ぶことができる。【発言・記述】</p> <p>□前時でまとめたものを見やすいように掲示しておく。</p> <p>□アニメ作家とともに授業を進めていく中で、必要な助言や情報は適宜子どもたちに伝えてもらうようにする。</p>

7, 前時までの板書

【ツルスイの「楽しさ」を広げる】

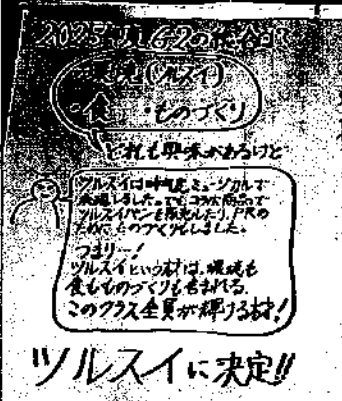
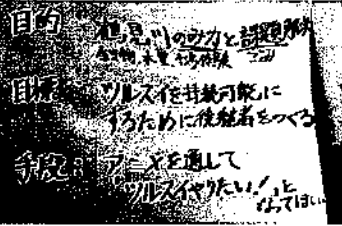


【アイデアスケッチで、楽しさを視覚化してコンテンツを決める】








- 活動や体験 → ○干潟と生き物
- ○干潟の水質
- 魅力と課題 → ○ゲーム
- ○ごみ拾い
- 連携 → ○コラポパン
- その他 → ○歴史

9、活動報告

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1 ～	教室	今年度の総合的な学習の時間の材について、話し合った。 材が鶴見川のツルスイに決定する。		興味のあるものが「環境(ツルスイ)」「食」「ものづくり」に分かれたが、ツルスイなら、食のコラボも、ものづくりも活動としてやれるから、このクラスの誰もが輝く活動になるという児童の言葉でツルスイに決定した。
2・3		ツルスイの魅力と課題の発信について、今までにない方法を考え、アニメーション(コマ撮り)ならものづくりも活躍できるということで、表現方法が決まった。	<p>2025年の活動 ツルスイの材で+ 集大成にしたい!</p> <p>卒業したらいなくなる...でもツルスイの活動は ずっと続いてほしい → 後継者の育成 そのためには...</p> 	今までは、魅力と課題の発信をして、鶴見川的环境をよくすることが目的だったが、今年度はツルスイが持続することが環境を守ることになると捉え直し、後継者の育成を掲げた。そして、その発信方法として、今までに取り組んだことのないアニメーションに挑戦することになった。
4・5		鶴見川流域ネットワークから、川の水質や生態について学ぶ。 ※計画では、ここで鶴見川干潟へ探検に行く予定だったが、天候と気温で順序が逆になり、鶴見川のことについて専門家から学ぶことが先になった。	<p>鶴見川の水質</p> <p>100年前 大正 1920年 川で水泳授業 : 泳がせられたい</p> <p>50年前 1970年 生活排水 : 汚い水</p> <p>原因 → 90% 台所 40% トイレ 20% 洗濯 10% トイ 30%</p>	鶴見川の水質について学び、100年前は泳げたことや、50年前に人口増加によって生活排水で水質が悪くなり、行き小野がいなくなってしまうことを知った。また、下水処理施設や護岸工事のおかげで、現代は水質もよくなり、氾濫もなくなったことを知った。

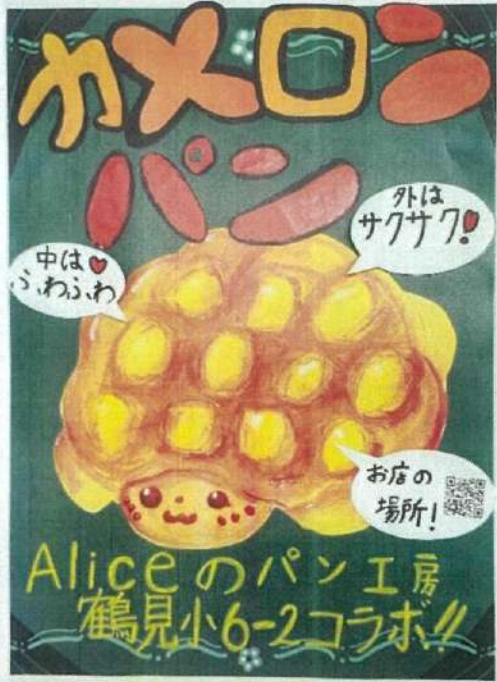
6・7	教室 ・ 干潟	きっかけづくりプラン ナーとの出会い。 		予定では干潟と一緒に参加する予定だったが、雨のために座学に切り替えた。 しかし、雨があがったので、「とにかく行ってみたい」という思いを優先し、途中から探検に切り替えた。 初めての干潟の児童もいたが、「本当にきれいなんだ！」という声が聞こえた。
8・9	干潟	改めての鶴見川探検 		夢中になって生き物を追いかけ、捕まえる楽しさや水の透明さ、川の面白さを全身で体感することができる活動となった。
10・11	教室	日本環境教育フォーラム 「海洋プラスチック講座」を受講。 		プラスチックといっても、浮くものもあれば、沈むものもあることや、プラスチックでなくてもよい製品などを考えるを通して、これからどう環境と向き合っていくのかを考えるきっかけとなった。

0	パン屋	<p>昨年度、コラボ商品を開発していただいたパン屋さんと今年度も活動した。</p> <p>※夏休み期間に商品開発をして進めたコンテンツなので、時数計上はせず。</p>	 	<p>自分たちが考えたアイデアが商品になることや、販売に向けてポスターやチラシを制作し、宣伝活動をする事で多くのことを学んだ。勇気を出してチラシを渡した人が商品を買ってくれたときの嬉しさがコミュニケーションの楽しさを教えてくれた。</p>
12 ～ 19	教室	<p>イベントや情報発信に向けての話し合いと準備</p>		<p>ゲームを制作するにも、川の生き物の魅力やごみの課題が伝わるかどうかを基準に考え、楽しみながら課題意識が伝わるものを考案した。</p>
0	区民文化センター	<p>サルビアホールにて、「つるみ ちゅらみ☆エコフェスタ」でツルスイ開催。 ゲーム、オリジナルパン販売、チラシ配布他</p>	 	
				

○	パンクパークヨコハマ	<p>ネイチャーキッズ フェスタにて、ツルスイ開催</p> <p>パン販売、ゲーム、ツルスイパン、Tシャツ販売</p>		<p>みなとみらいにて、ツルスイの活動を発信することができ、多くの人に活動の魅力が伝えられた。</p>
○	教室	<p>校内でツルスイ開催</p> <p>ゲームやアイギョル総選挙（アイギョルとは、生き物をキャラクター化して、誰にでも親しまれるようにしたもの）で人気投票、過去のファンブックの配布などを行った。</p>		<p>一人一人が役割をもち、ゲーム（アイギョルパチンコ・アイギョルパニック）やポスター・チラシ制作など、それぞれが準備を進めた。皆で協力して一つの目的へ向かって活動したときの成果を実感できるものとなった。</p>
○	まち干潟	<p>ツルスイツアー開催</p> <p>ごみ拾いで課題と向き合い、生き物と触れ合う体験を校内の子どもたちに呼びかけて参加してもらった。</p>		<p>ごみ拾いや生き物を捕まえるを経験を実際に体験してもらうことで、参加者に楽しさを実感してもらえた。</p>
				

0	市庁舎	<p>GREEN×EXPOキックオフセッションに参加し、横浜市長へ直接2つの提言を行った。</p> <p>1. ツルスイとしてGREEN×EXPO2027へ向けてできることを考えるので、市長も一緒にできることを真剣に考えてほしい</p> <p>2. 横浜市としてツルスイを公式にGREEN×EXPOのパートナーとして認めてほしい。</p> <p>結果として、横浜市として全面的にツルスイを応援することと、GREEN×EXPOで世界へ向けこの取り組みを発信していくことを約束してもらった。</p>		<p>自分たちのやっている活動が横浜市と協力して、それがGREEN×EXPOへつながっていくことを約束してくれた。でもそれはこれからの活動への期待だから、ここからもっと真剣にとりくまなければならない。</p>
20・21	まち	ごみ拾い		<p>初めはあまり乗り気ではなかった児童も、やっていくうちにどんどんきれいになっていくことに意欲が高まり、もっとやりたいというところまで変容した。</p>

22・
23 教室 ツルスイオリジナルパン「カメロンパン」を試食し、ポスターやキャッチコピーを考える。

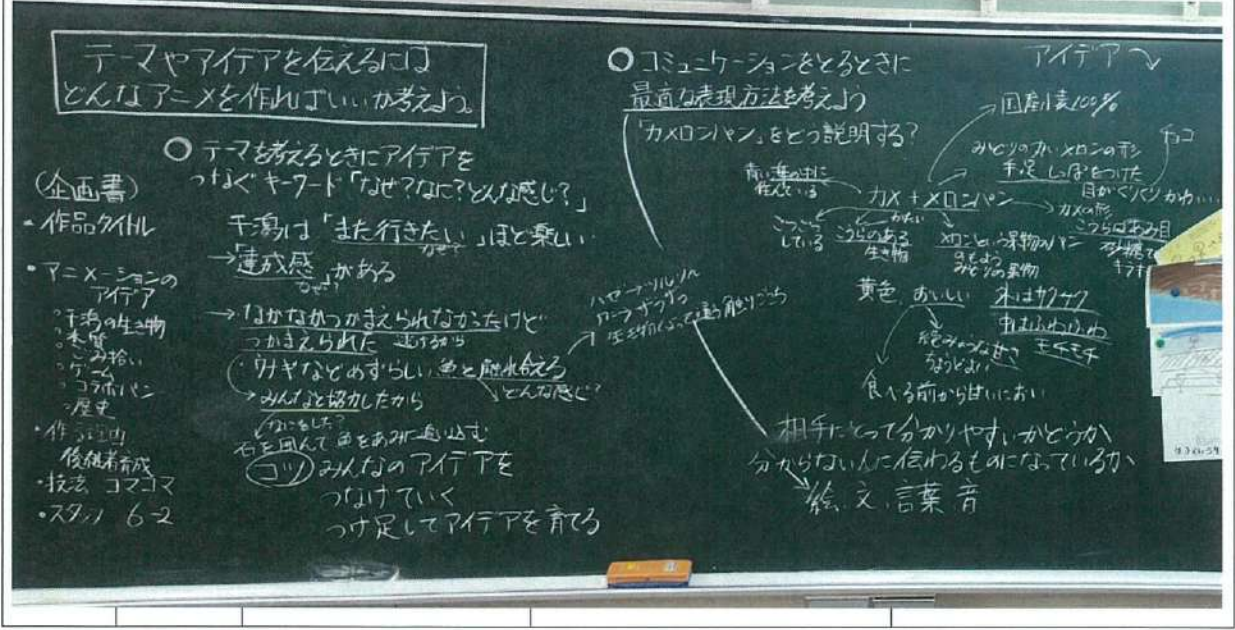




24 パン屋 カメロンパン販売開始
周辺でのポスター掲示
の交渉とチラシ配布




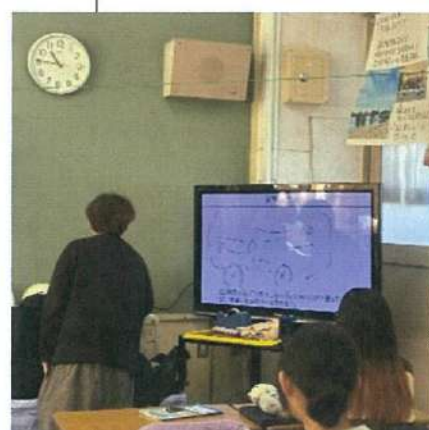
知らない人に勇気を出して渡すことでコミュニケーションの楽しさを時間していた。実際に買ってくれる人がいると、宣伝の効果を感じることができた。

<p>25 ～ 30</p>	<p>教室</p>	<p>アニメ監督・葦原武蔵さんとの出会い</p>  <p>ツルスイを後継者に伝えたいのは何かについて考える。</p>	<p>アニメは、1秒に12コマで作ることや、アニメの語源であるアニメは命を吹き込むという意味であることを教えてもらった。 ツルスイは楽しい。では何が楽しいのかを分析して、伝えたいことについて考えることで、映像づくりの柱を絞ることができた。</p>
------------------------	-----------	--	---



0	立教大学	環境省ESD動画100選授賞式	動画アドレス https://youtu.be/bCRHQoXzJSo?si=HhnCOKLoQ09tIAU	前年度の活動動画が環境省より表彰され、自分たちの活動への意欲が高まる。
31・32	教室	プロデューサーやディレクターとの出会い IKERUプロデューサー丸川貴史さん TOMATO RED MOTION ディレクター原 麻衣さん (株)Happilm ディレクター 大石健弘さん 伝えたいことを絞り込め、今後は伝える情報にするために必要な最低限の文章に再構成して、文脈を整える。	 <p>こちらに関する資料については、途中経過のものを末尾に別掲（資料1）</p>	文字を何度も見直して、伝わるかどうかを確認する作業は集中することが大変だったが、文章力が高まった。
33～42	教室	絵コンテ制作 シーンごとにグループに分かれて構成を考えて、絵コンテにまとめた。同時進行で、撮影できる実写動画も取り始めた。	別の添付資料として、別掲（資料2）	 

43 ～ 60	教室 まち 川 他	<p>絵コンテ完成後は、以下のグループに分かれて活動を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメ制作 <ul style="list-style-type: none"> →イラストチーム →コマコマチーム ※コマ撮りアプリ ・実写撮影班 ・編集 ・宣伝計画 ・イベント計画 ・ダンス 	<p>ここからは、少人数でのグループにアニメ監督やプロデューサー、ディレクターが入って活動を進めていたため、詳細な記録がない。</p>	<p>アニメ動画のパーツ↓</p> 
---------------	--------------------	---	---	---



○	駅前広場	<p>それ、イイじゃんフェスティバル（鶴見をつなぐ地域ポータルサイト【これつる～日々是つるみ～】主催）</p>	<p>区内の7校20クラスが参加して、総合的な学習の時間の活動の成果の発信の場として活用した。</p>	
---	------	---	---	--

61 ～ 70	教室	完成した動画の発信に向けて、イベントを企画し、実施する。	現在(3月30日時点)、これつるHPを編集中。 近日中に情報発信。 また、完成した動画については、YouTubeで配信中。 アニメ×実写動画アドレス https://youtu.be/aeqhvm6MEw4?si=0ZMEuxVYVV7Q7JWU	各イベントにて、ツルスイの活動を鶴見の人たちに広めることができた。 一年間を通して、様々な活動や体験を重ね、多くの方々と連携し、嬢王発信の機会を得ることができた。子どもによって育った資質能力は違えど、大きな成長と学びとなった。そして、環境を守っていくのは自分たちだという意識が芽生えた。
0	横浜市庁舎1F アトリウム	○サーキュラーエコノミーplus×EXPO2026【横浜市制作経営局共創推進課主催】 GREEN×EXPO2027へ向け、1年前となる3月20日に、情報発信する。	画像資料なし	自分たちが活動をすれば、まちの景観がよくなる。そしてその活動に共感してくれた人たちが加わり、もっと景観をよくしていくことができると実感することができた。
0	ベルロード	○鶴見銀座商店街ベルロードで開催されるイベント「つるぎんどっと来〜い!!」にて、完成動画のチラシの配布。Tシャツやキーホルダー、カメロンパンの販売。ゲームなども行った。		
0	HP	GREEN×EXPO推進課からStyle100の取材。		過去5年間の活動のまとめ
0			https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/article-2002/	

資料1

【ツルスイ】

- ・ツルスイとは、鶴見川水族館の略です
- ・鶴見小学校の児童が取り組んでいる環境保全活動です
- ・持続可能な鶴見川を目指しています → **いい活動だね**
- ・川は、水質がきれいで生き物がたくさんいるという魅力があります
- ・しかし、ごみがあるという課題もあります
- ・だから、魅力を発信して課題を解決する活動に取り組んでいます
- ・干潟は、川に入って生き物を捕まえられる場所です **入りたい!!**
- ・なかなか捕まえられないけど、友達と協力して捕まえられた時は、とても達成感があります
- ・そんな魅力を発信するために、生き物を水槽に入れて展示しています
- ・だから鶴見川水族館「ツルスイ」という名前になりました → **飼育するとホックリ いやされる**
- ・生き物をアイギョルというキャラクターにしています
- ・アイギョルでアイドルグループをつくってPRもしています
- ・また、川のごみを減らすために、まちのごみ拾いをしています → **ごみに触れる**
- ・このような魅力と課題をより多くの人に知ってもらうために、さまざまな表現をしてきました
- ・歌、音楽と映像、ダンス、ミュージカル、パン屋さんとのコラボ、アニメーションなどです
- ・その過程で専門家や企業、行政、まちの人とつながってきました
- ・多くの人とつながれるのもツルスイの魅力です
- ・この活動は今年で5年目です
- ・これからもツルスイの思いを繋いで、活動を続けていきたいです。

【生き物】

- ・ツルスイでは、干潟へ探検に行きます → **このキーワードでゆかくする人という**
- ・干潟は貝がらがたくさんあります
- ・だから貝がら浜と呼ばれています
- ・行く前は「本当に生き物はいるのかな?」と思っていました
- ・行ってみると「うわあ、きれい!」「魚やかにたくさんいる!」と声が出ます
- ・生き物は苦手だったけど、自然とみんなと一緒に捕まえようとしていました
- ・でも、川へ入ったけど、なかなか捕まえることはできません
- ・だからどんどん夢中になります
- ・すると「ドボン!!」よろけて尻もちをついてパンツまでびしょりになってしまいました
- ・「やば!着替え持ってきてない!」と絶望的な気持ちになりました
- ・「でもここまで濡れたら絶対に捕まえよう!」と開き直りました
- ・捕まえよと追いかけると、生き物と触れ合える楽しさが戻ってきました
- ・友達と協力してやっと捕まえました
- ・「やったあ!」と嬉しい気持ちになりました
- ・新しい生き物を捕まえると新しいアイギョルのキャラクターになります

【水質】 **生き物** A=X **イメージ? 事実?**

- ・鶴見川は行く前は、ごみがあって汚いと思っていました
- だけど、実際に行ってみると、水は透き通っていて、中の魚が見えます
- ・水質が良くないと生息しないあゆもいます
- だから帰る時には「また来たい」と思います

【ごみ拾い】 **課題** A=X **生き物** **実物は汚ない**

- 私たちは川の環境をよくしたいです
- ・川にあるごみは、まちから流れてきたものです
- ・だから、まちにごみ拾いに行くことにしました
- ・初めは「汚いし、面倒で嫌だな」と思いました
- ・でも、袋とトングをもつと「やるか!」と気持ちを切り替えました。
- やっているうちに、まちがきれいになるから楽しくなってきました
- ・拾ってみてわかったことは、タバコが多いということです
- ・思ってもみないものも落ちていました。自転車やくつ、ソファ、冷蔵庫にバッグです
- 拾っても拾ってもきりがいいけど、気付くと夢中になっていました。
- まちがきれいになると爽快感と達成感を味わえます
- まちの人から「きれいになったね! ありがとう!」と言われるとやり甲斐も感じました

【ツルスイパン】 **環境 x パンの組み合わせはよい**

- ・どうしてもツルスイとパンのコラボを諦められない子がいました
- ・一人で区内のパン屋をリストアップしました
- ・その中の一つに Alice のパン工房がありました
- ・放課後に友達とパン屋へ行ってみました
- ・まず、パンを買って食べてみました
- ・本当に美味しかったです
- ・これならコラボパンを作りたいと思いました
- ・パン屋さんにツルスイの活動を伝えると「すごいね」と共感してくれました
- ・「一緒にやりましょう」と言ってくれました
- ・クラスの皆で出合ったアイデアをもとに、夏休みに商品開発をしました

【チョコタニチ】

- ・そうして去年完成したのが、タニシのアイギョル「谷川谷智」をチョココロネにしたチョコタニチで
- ・タニシの形に見えるチョココロネにアイギョルの顔が描かれています
- ・いつ食べても美味しい
- ・まず、匂いがいい
- ・パンの香ばしさとチョコの甘い香り
- ・そしてパンは、パンだけでも美味しく食べられるくらい美味しいです
- ・そこにチョコが入るともうたまらない
- ・10こ以上食べられる
- ・チョコを止めている板チョコも美味しい
- ・チョコもチョコでビター過ぎず、甘過ぎず絶妙な美味しさです

【カメロンパン】

実写

見た目

- ・カメロンパンは、かめの形をしたパンです
- ・メロンパンに手足や尻尾が生えています
- ・国産小麦 100%のパンです
- ・顔はチョコで描かれていて、全て手書きです
- ・つぶらな瞳が愛くるしいです
- ・甲羅には砂糖がまぶしてあり、それがキラキラ輝いています

環境 x ツルスイ
パン

だから映えるし、アイギョルにも興味がわきます

味

- ・香ばしい香りは、いつでも食べたくなります
- ・一口食べると、外はサクサク、中はふわふわで、いろいろな食感を楽しめます
- ・甘過ぎず素材本来の味で、飽きがこない優しい味です
- ・このパンには、パン屋の山崎さんの愛情がたっぷり入っています
- ・だから何度も食べたくなります
- ・まさにパンの常識を超えた逸品です

【宣伝】

努力

A=X

今は撮れないから

- ・真剣にコラボしてくれたから、真剣に販売しようと思いました
- ・ポスターでチラシも色づかいやデザインを工夫して、目に留まるようにしました
- チラシを配る時には、最初はどうかしらいいかわからなかったです

でも一歩勇気を出して渡したら、受け取ってくれました

嬉しかったし、やったと思えました

配っているうちに、だんだん楽しくなってきました

笑顔でもらってくると、嬉しくなります

同じ感情

受け取ってくれる人が増えて

【ゲーム】

実写

- ・ツルスイの後継者を育てるには、子どもに知ってもらう必要があります
- ツルスイの魅力と課題が伝わるゲームを考えました
- ・それが生き物が苦手な人でも楽しめるアイギョルパチンコです
- ・木の板や段ボールを使い、輪ゴムでゴミ箱を設定して、ゴムでビー玉を飛ばす手作りのゲームです
- ・ビー玉がごみで、魚に食べさせないようにゴミ箱に入れます
- ・川底に沈むとアウトになります
- ・難易度が高いゴミ箱に入ると得点が高いです
- ・このゲームをやった子が、ごみはきちんとゴミ箱に捨てようと思ってもらえるようにつくりました

二手で

子ども向けに作ったけど、大人もたくさんきてくれ、老若男女さまざまな世代に楽しんでもらえました
ゲームをやった子は、「またやりたい!」と言ってくれました → 運営役じゃない

達成感を味わえました

歴史を失 重要なことを最後に

【アイギョル誕生】

- ・生き物をキャラクターにして、アイドルグループをつくりたい
- ・生き物が苦手でも、キャラクターならかわいいと思って川に興味をもってくれるはず
- ・魚だから、アイドルではなくアイギョルにしよう
- ・TURUMIGAWA20を結成しました
- ・アイドルなら歌も必要だと感じ、オリジナルの歌も制作しました
- ・区役所でデビューし、歌を流しながらツルスイを開催しました
- ・たくさんの人に、ツルスイの活動に共感してもらうことができました

歴史→アニメと実写

【歴史：映像】

- ・音楽家 Akeboshi さんに協力してもらいました
- ・拾ったごみを楽器にして、音を出します
- ・その音を Akeboshi さんが音楽にしてくれました
- ・音と映像と言葉で魅力と課題を伝える動画づくりに挑戦しました
- ・拾っても拾っても終わらないごみ拾いに対する本音とそれでもあきらめないで続けていこうという決意
- ・この動画は横浜市資源循環局のHPに掲載され、環境省のESD動画100選に選ばれました
- ・この動画をつくった年に、毎年春分の日である3月20日にイベントを開催することを決めました

先輩の思いを大切に

生き

【歴史：ダンス】

- ・鶴見区には、外国から来た方が多いです
- ・だから言葉が分からなくても楽しさが伝わるダンスで、ツルスイを表現できないかと考えました
- ・オリジナルの曲をつくり、自分たちで振り付けを考えました
- ・ダンスは総持寺の「夢広場」やシアル鶴見の屋上で発表しました
- ・だれにでも踊って参加してもらえるように簡単な振り付けにしたので、小さい子も一緒に踊ってくれました

【歴史：ミュージカル】

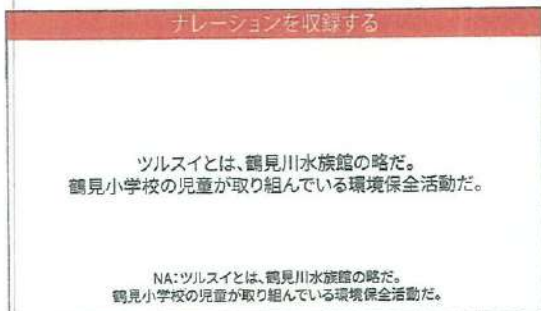
- ・鶴見川の水質はきれいだとTRネットに教えてもらいました
- ・だけど探検に行くと、やっぱりごみが気になりました
- ・この川の中へこのあとに入ることを考えると少し戸惑いました
- ・だけど干潟へ着くと、想像以上にきれいな景色が広がっていました
- ・水も透き通っていて、夢中で生き物を追いかけていました
- ・帰ってきたときに思ったことがあります
- ・いくら知識できれいだと知っても、実際に行ってみないと実感がわかないということです
- ・だから心に残る表現で心に刺さるような取り組みに挑戦したいと考えました
- ・そこで心に直接届けられる劇と歌に決めました
- ・ミュージカルをやるにあたり脚本家・演出家の先生と出会いました
- ・よい作品は人間性だよと教えてくれました
- ・本番だけ「ごみをなくしたい」と訴えても、日頃ごみに見向きもしないようでは伝えられないよと教えてくれたので
- ・だから、今まで以上にごみとも向き合い、真剣にごみ拾いにも挑戦しました
- ・などなど

1



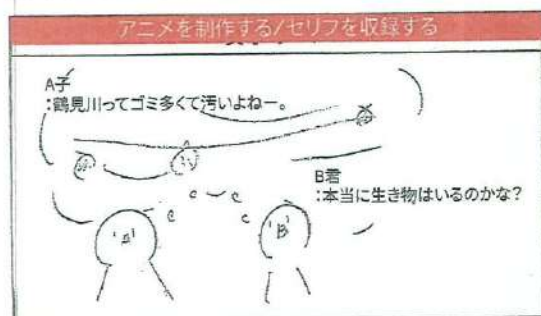
やること DAY

2



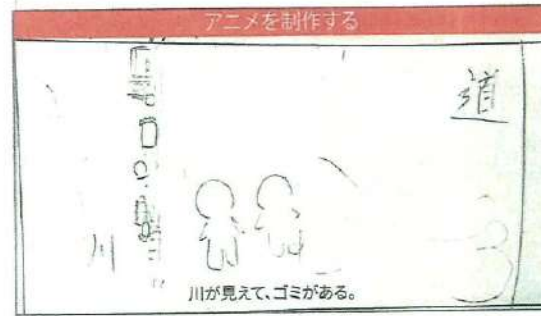
やること DAY
ナレーション

3



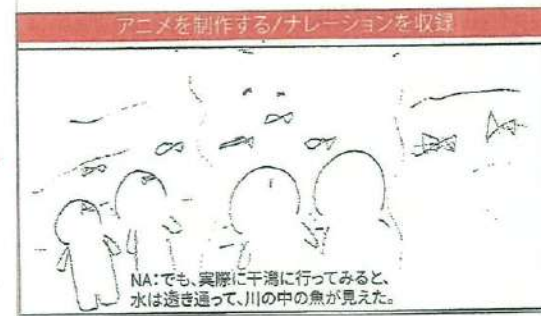
やること DAY
・はいけい 水色
・作る物
・ぼやんでいるモヤモヤ
・ゴミ

4



やること DAY
・はいけい 川を流るう道
・作る物
・ゴミ

5



やること DAY
・はいけい 川、外からみえている糸念
・作る物
・魚

5



やること DAY

6

アニメを制作する/セリフを収録

NA: 友達と協力して、魚を捕まえるのは、楽しくて夢中になった。

やること DAY

・岩と釣針
はいはい
川

7

アニメを制作する/セリフを収録

(前のカッパ)
今日のことを
おもいだしてる

A子: また鶴見川に行きたいよね!!
Bくん: 楽しかったよねー!

やること DAY

はいはい 水色モヤモヤ

8

実写を撮影する/ナレーションを収録

NA: そんな鶴見川の魅力を発信するために、生き物を水景に入れて飼育している。

やること DAY

再度撮る

9

過去の素材を編集する/ナレーションを収録

実写

校内や街でも展示し始めた。

やること DAY

素材

10

過去の素材を編集する/ナレーションを収録

歌	音楽	映像
ダンス	ミュージカル	パン
		アニメ

歌や音楽と映像、ダンス、ミュージカル、パン屋さんのコラボ、アニメーションもやっている。

やること DAY

カット

11

アニメを制作する/ナレーションを収録

はきん

しかし、こみがあるという課題もある。

やること DAY

P=X
川、ゴミ
ラップ: はきん...
おむつ 7-70

12

アニメを制作する/セリフを収録



やること DAY
水音、モヤモヤ

13

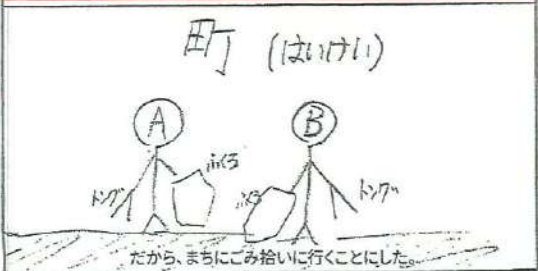
アニメを制作する/ナレーションを収録



やること DAY
町と川
地図で#のつながり

14

アニメを制作する/ナレーションを収録



やること DAY
町のはいけい
トング、かご

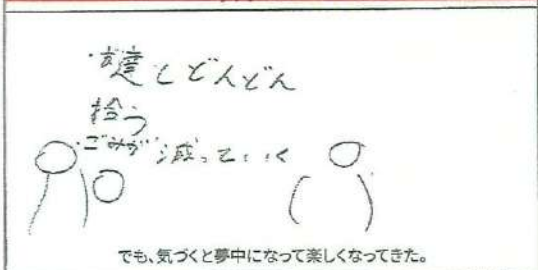
15

アニメを制作する/セリフを収録



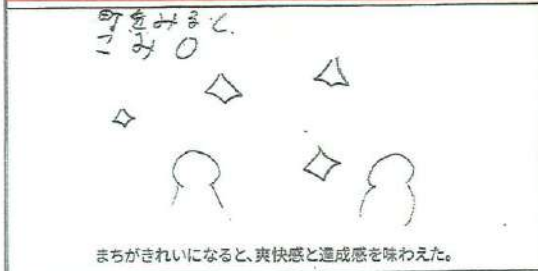
やること DAY
町
目の回りぼろ

アニメを制作する/ナレーションを収録



やること DAY
笑顔に変わる

アニメを制作する/ナレーションを収録



やること DAY
町のゴミが#でつながっている



アニメを制作する/セリフを収録

16



まちの人から「きれいになったね!ありがとう!」と言われ、やり甲斐を感じた。

やること

DAY

実写を撮影する

17



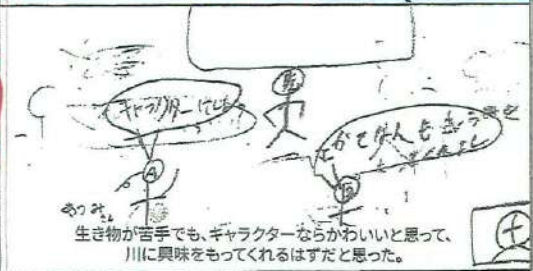
どうしたら、鶴見川の魅力と同時に課題を発信できるのだろうか?

やること

DAY

実写を撮影する

18



生き物が苦手でも、キャラクターならかわいいと思って、川に興味をもってくれるはずだと思った。

やること

DAY

実写を撮影する

19



だから、精まされた生き物だけをキャラクターにしようと思った。

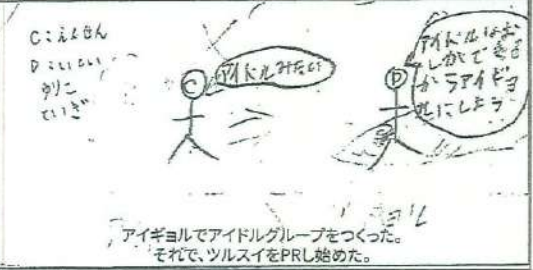
やること カニーとハマハマの DAY ~~制作~~

絵も書く テーマ

ゆり

の素材を編集する

20



アイゴルでアイドルグループをつかった。それで、ツルスイをPRし始めた。

やること

DAY

アイドルみたいときずくしを

とる! 音声のみ

の素材を編集する

21



やること

DAY

撮影をする



ただどうしても、ツルスイとパンのコラボというアイデアを語られない子がいた。

やること

DAY

撮影をする



一人で区内のパン屋をリストアップした。

やること

DAY

撮影をする



パン屋さんにツルスイの活動を伝えると、「すごいね」と共感してくれた。

やること

DAY

撮影をする or 過去の素材を編集する



真剣にコラボしてくれ、チョコタニチ・カメロンパンが生まれた。

やること

DAY

撮影をする or 過去の素材を編集する

タニシのアイギョル「谷川谷智」をチョココロネにした商品だ。タニシの形に見えるチョココロネだ。そこにアイギョルの顔が描かれている。

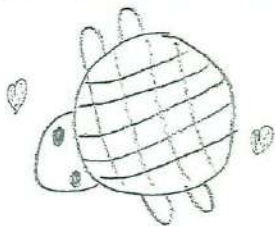


やること

DAY

撮影をする or 過去の素材を編集する

【カメロンパン】すべて手書き、顔はチョコで描かれている。



やること

DAY

27
28

撮影をする

出演:
配る人→ゆな、あきと、ひかる、りおなのうち三人
もらってくれる人→誰か
カメラマン→四人のうち誰か

①

(はるま、あみあみ、あおい)

宣伝のためにチラシも配りもした。

ハン

やること DAY

28
29

撮影をする

出演:
配る人→ゆな、あきと、ひかる、りおなのうち三人
もらってくれる人→誰か
カメラマン→四人のうち誰か

②

S46: 宣伝のためにチラシも配りもした。

馬尺

(あきと、ひかる、ゆな、りお)

宣伝のためにチラシも配りもした。

やること DAY

29
30

撮影をする

① 仮ひかるくん
*「やりたい!」の人と同じ人
(はるま)

最初はどうしたらいいか分からなかったが、
一歩勇気を出して演じて受け取ってもらえるとだんだん楽しくなってきた。
笑顔でもらってくれると、もっと短くなった。

やること DAY

30
31



やること DAY

31
32



やること DAY

32
33



やること DAY

→ そして、もっと仲間を増やしたいと思った

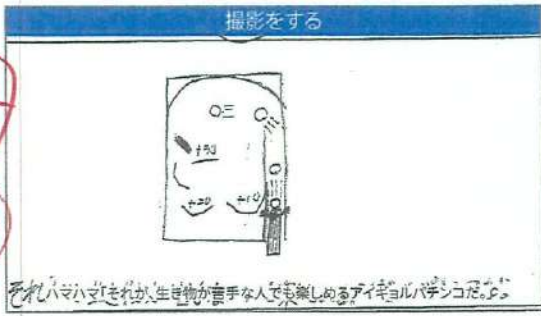
36



やること DAY

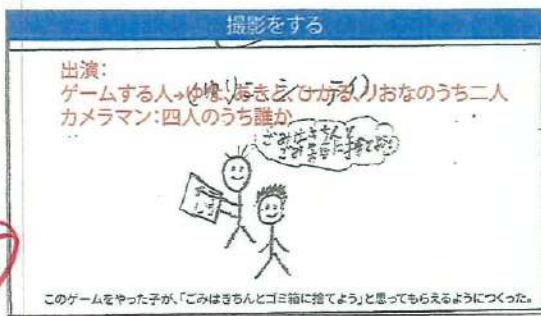
セリフは ~~33~~ に入れた

37
34



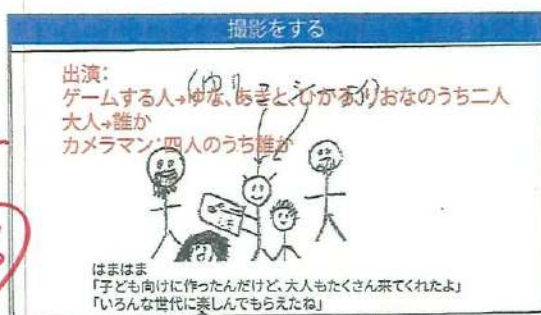
やること DAY

38
35



やること DAY

39
36



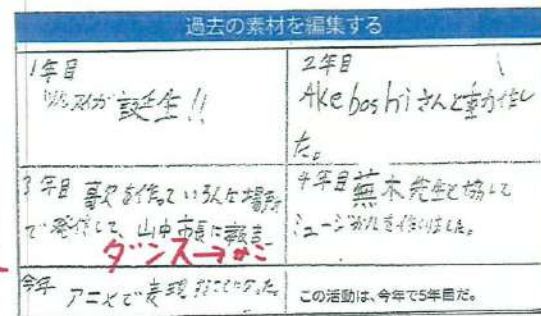
やること DAY

40
37



やること DAY

41
38



やること DAY